

仮説と検証07

今回は主に、科学のABCの振り返りを行った。Bを考える時に、どうしてもAのことからだけを見ているために、思いつかないことがある。

他の人々の科学のABC例を見た。色々な例を見ているなかで検証にあたるころは、
「現状でできるかどうかにはなれている考えを自分が持っていることがわかった。Good!!
前回でも学んだ通り、
ありえない事をBにおいて考えようという特為を行うと課題に対しもうすぐ回答できるので(何かが)考えやすくなる。
こもびが丸いのも太陽の形からだと思っていなかった。常識にしろわからないBの答えも意識しないと
考えた。Good!

今日の授業では、レオナルド・ダ・ヴィンチの観察力、とても驚かされた。Good! 「受胎告知」という作品が、空気遠近法や大気遠近法などの法則が使われていることが分かり、ダ・ヴィンチが風景をしっかりと観察していたことが分かる。また、1点透視図法や歪曲画からは空間内の構造などを、しっかりと観察していたと考えられる。このことから、観察することが発見を生み出すためにとても重要であることが改めて分かった。Good!
多くの法則の発見が、何物事もリアルにするのではないかと考えられる。

私はこれまで「遠く山が青いなんて気づいたことがなかったけど、たしかに言われてみれば思い出せる感覚が、「生まれながらの科学者」の勘と「意識して科学のABCを使って考える」という両方があると「気づき」につながらないことを実感した。空気遠近法は科学的な法則で、そこから初めて、我々の考えらる検証手法は太陽が丸い日は丸い日に見えたり、月が丸い日は丸い日に見えたりと、
と。Good!

13人組の「科学のABC」を見て、自分には別の考え方が組みあがって、とてもおもしろかった。Good! レオナルド・ダ・ヴィンチの空気遠近法は、遠くを青くぼくぼくした。

まず、他の人の課題の内容は、とても面白いと思えたと思います。学生の皆さんは、お互いに全然違います。もっと考えを交換しましょう!

授業の課題は「実際にやってみてできるかどうかを試してみる」ためのものです。授業で聞いているとできるような気がしますよね。でもやってみると違うことがある。だから、課題にしています。
点数が低かったとしても、再提出でできれば、全く問題がありません!
左のコメントにもあるように自由に気楽に考えましょう!

ダ・ヴィンチの生きた時代は、ガリレオよりも、もっと昔です。ルネサンスの時代で、古代ギリシャやローマ時代の彫刻などに触発されて、リアルな感じの芸術が好まれました。
科学も哲学も区別がなかった時代に、あらゆる知識を総動員してリアルな感じの絵画を描きたいと思ったのでしょうか。それにしても、その知識が半端ないですね。

遠い山は青いこと。無意識に知っていることです。それを意識の下にさらすためには、科学のABCのような考え方が必要です。
両方があって、初めて気づける、というのはとてもいい指摘です!!

個人的な体験として、木漏れ日が太陽の形だと気づいたとき、はっとしました。意外な結末だったのではないのでしょうか。次の日食は、東京では、2030年だそうです!